

## 平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

- 豊島高等学校の校訓である、「克己」の精神に基づいて 「自主・自律」「己を鍛え己を磨き、ともに切磋琢磨」「己を大切に、他を思いやる」人材を育成する。
- 1 夢を叶える学校として・・・将来の自己実現の志をしっかりと持たせ、その夢を叶えるべく、充実した誇り高い高校生活を送れる学校
  - 2 才能を磨く学校として・・・普通科専門コース制の学校として、各コースの特色を生かし、自己の興味関心を発展させて、得意技として磨きをかける学校
  - 3 社会そして世界へ繋がる学校として・・・社会人として必要なコミュニケーション力や語学力を身につけ、国際社会に通用する人材を育成する学校

## 2 中期的目標

## 1 学力の向上及び自己表現力の育成と授業改善の取組み

(1) 学力の向上とコミュニケーション力、プレゼンテーション力の育成。

- ア 普通科総合選択制の自由選択科目の効率化を図ると共に、コース専門科目・普通科選択科目の検討を継続して行い、選択パターンを収斂させ効率的な学習に取り組む。
- イ 習熟度別授業の導入など、生徒の多様化に対応した授業形態・内容を工夫し、学ぶ意欲を高め、学力向上に取り組む。
- ウ 教科授業に加えて総合的な学習の時間、学校行事を活用して、コミュニケーション力・プレゼンテーション力の育成に取り組む。全教科で国際社会・情報科社会に対応する人材を育成する。

※普総選アンケートのプレゼンテーション能力に関する肯定率（平成 27 年度 55%）を毎年 1% 引き上げ平成 30 年度には 58% にする。

※普総選アンケートのコミュニケーション力に関する肯定率（平成 27 年度 72%）を毎年 1% 平成 30 年度には 75% にする。

(2) 「わかる授業」、「課題解決型の授業」の創造に取り組む。

- ア 授業改善のため、研究授業や研修を積極的に行い、その成果を教職員共有のものとして、教育活動に生かせるよう努める。
- イ 調べ学習や探求など課題解決の力を付ける授業を増やす。
- ウ ICT を効果的に活用し、視覚に訴える授業の充実や体験的学習を取り入れた指導内容・指導方法の工夫に努める。

※生徒の授業アンケートのわかりやすい授業の肯定率（平成 27 年度 90%）を毎年 1% 引き上げ平成 30 年度には 93% にする。

※平成 30 年までに、学校教育自己診断「宿題や課題がよく出される」を（平成 27 年度 70%）を平成 30 年度には 80% に、「予習や復習を欠かせない」を（平成 27 年度 34%）平成 30 年度には 50% にする。

## 2 自らの将来を見据え、夢や希望を叶える進路を実現する

(1) 進学実績の向上

- ア 難関私立大、中堅私立大に毎年数十人が合格できるようにする。
- イ 土曜講習だけでなく、「進学特別ルーム」及び「アドバンス学習室」を自習室・大講義室として開放する。
- ウ 早い段階での進学意識の醸成につとめる。
- エ 「アドバンス学習ルーム」（平成 27 年度学校経営推進費事業により）、を活用し講習・自習等の学習環境の充実を図る。

※難関 8 私大（関・関・同・立・京産・近・甲・龍）・中堅私大（大経・関外・京外・神学院・阪南・摂南・追手門・大産・京女・仏教）の延べ合格者数（平成 27 年度生 204 名 1/30 現在）を 30 年度に 230 名にする。

(2) キャリアデザインの推進

- ア 自分の人生を将来から見つめ、自分の生き方や進路について考えさせる「キャリアデザイン」を総合的な学習の時間と LHR 等を活用して推進する。
- イ 入学から卒業までの段階を踏んだ 3 年間のプログラムを編成し、進路先の更に先にある職業意識を育む。

※学校教育自己診断における進路情報に関する肯定率（平成 27 年度 66%）を 30 年度に 70% にする。

## 3 自主・自律の精神を養い、社会そして世界に繋がる生徒の育成

(1) 社会性を育むために生徒の規範意識を高め、通学マナーの向上とあいさつ運動の励行に取り組む。

- ア 遅刻指導を徹底し、生活リズムの確立を支援する。
- イ 毎日の登下校時及び毎時間の開始・終了時の挨拶の励行。
- ウ 日常から言葉遣いの指導を徹底し、正しい言葉遣いへの意識向上を図る。
- ※平均総数（平成 27 年度 2000 回）を平成 30 年度に 1800 回にする。

(2) 特別活動・生徒会活動・社会貢献・国際交流を通じて自主・自律の精神を養い、地域社会との繋がりや国際感覚を身につける。

- ア クラブ活動充実のため、入学時のクラブ紹介、体験入部の企画を充実させる。
- イ 豊島高校展（作品展）を地域で開催し、生徒の学習の成果やクラブの発表の機会とする。
- ウ 日常の清掃とは別に部活動を中心とした清掃活動を継続実施し、校内の特定地域を集中清掃や校外の地域清掃を行う。
- エ 生徒会活動や学校行事の活性化をはかり、生徒が主体的に運営する機会を増やす。
- オ 国際交流を深め、海外の学校との連携を強化し、相互訪問や英語による課題研究及び発表会等を行なう。
- カ 3 年間を見通した人権教育の指導計画を確立して、豊かな心を育む教育を推進する。
- キ 普通科専門コース制設置に伴い、各コースの特徴となる行事を取り入れながら、専門的な教育内容を実践し、それを生かした進路実現を図る。

※学校教育自己診断の学校行事における肯定率（平成 27 年度 59%）を 3 年後に 63% にする。

※全学年の部活動加入率（平成 27 年度 73%）を 30 年度に 75% にする。

## 4 学校全体の課題を共有して、解決に向けての組織づくり。

- (1) 分掌間での連携・調整を強化して迅速な課題解決に向け、校内組織を有機的に再編する。
- (2) 課題の解決のため、可能な限り分担を既存の経営会議・運営委員会など既存の組織に落とし込む。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
○満足度「本校への入学満足度」: 全体的な保護者肯定率 88.7% (前年 87.9%、以下同様の表記とする)、生徒 73.0% (80.5%)。2 年保護者 91.2% (88.6%) 上昇。「学校に行くのが楽しい」: 保護者肯定率 81.2% (85.9%)、生徒 70.7% (75.4%) とやや下げた。しかし、両項目とも 1 年生が、満足度 63.8%、学	第 1 回 (6/17) ○「わかる授業」の創造、「キャリアデザインの推進」について 授業改善の方向性、卒業後の方向性を考えさせることができている。コース制に改編すると普総選との違いが分かりにくいので、心配である。

<p>校が楽しい67.9%と低い。</p> <p>○学力向上「入学後自分は成長した」:72% (73%)、1年57.8% (65%)、「選択科目に様々な興味ある内容のものが用意されている」:62.6% (68.1%)、「他の学校にない特色」:生徒肯定率61.9% (72.8%)、1年肯定率51.7% (67.8%) 改編による影響をプラスに方向に出来ていない。「ICT機器の活用」:42.8% (40.7%) だが、1年生が55.2%と高かった。</p> <p>○進路・行事・部活「進路情報」生徒肯定率:63.4% (66.2%)、3年生は66.3% (59.6%) は大幅増であるが、3年保護者は47.6% (63.7%) に下降。携帯メール等を使用しているが、生徒を通じて保護者に連絡する方法に限界がある。「学校行事」生徒肯定率:52.9% (58.5%) と昨年に続き下降。但し、保護者肯定率:84.6% (86.5%) と高く、意識の違いが大きく出ている。「部活動」:肯定率80.7% (84.6%) 下がった原因は1年生の加入率による。保護者肯定率83.0% (84.0%)。「人権教育」:生徒肯定率62.4% (52.5%) は指導教諭を中心とした「総合的な学習(CD)」での取り組みの結果が出ている。但し、保護者の肯定率は53.3% (64.4%) と下がったのは、保護者向けメール配信の減少によるものと推察する。</p>	<p>○「学力の向上」について</p> <p>家庭学習の取組みを行うと中学校でも生徒が穏やかになる。家庭学習の定着は大切である。多くの項目で、授業アンケートの結果を利用しているが、不本意入学かどうかを入学時に調べ、それを3年間追跡調査すればどの様に変ったかをアピールできる。ICTを利用した家庭学習は主流の時代になる。企業が開発しているアプリにも目を向けるために情報収集すべし。</p> <p>第2回(10/14)</p> <p>○授業改善について</p> <p>授業アンケートのPDCAを活用し、「より良い授業づくり」によく取り組んでいる。この2年かなり進化したととらえている(勉強合宿、ICT機器の利用)</p> <p>○遅刻者数について</p> <p>遅刻が多い。学校がやる取組みと家庭や本人に課せられている時間が多すぎて、うまく機能していないのではないか。</p> <p>○eラーニングに於いては、見る教材は10分、特教材は5分を基本とすべし。</p> <p>第3回</p> <p>○学力の向上</p> <p>学校が楽しいと感じるベースはできている。生徒はあれもこれもできないので、自分と向き合う時間が無いのではないか。これはやろうと言うスイッチが入れば生徒は自然と学習に向かう。記憶を定着させるために宿題は必要。なぜやる必要があるのか納得させる必要がある。自分がこれからどうやって生きて行くかなど、高校時代は一番不安な時期である。高校時代考えることが一杯与えられているので、考える材料はある。</p> <p>○キャリア教育</p> <p>将来何をするか、何になるか自分で考えること、つまりキャリア教育が大切である。「プロに聞く」という豊島高校での取組みは大変良い。自分の子供も今でも話の内容を大変良く覚えている。身近な大人(先生も含む)から話を聞くと、自分を見つめ直す良い機会になる。公立高校は進路相談、進学相談なのか。大学に何人入ったかは指標ではなく、どんな資質をつけたかが問われるべきだ。何が起きるか分からない社会に対応できる教育が求められる。</p> <p>○遅刻者数</p> <p>遅刻の数から見る限り、学校の努力は十分理解できる。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力向上とコミュニケーション力の育成と授業改善の取組み	<p>(1) 学力の向上とコミュニケーション力・プレゼンテーション力の育成。</p> <p>ア コース専門科目や普通科選択科目の検討を行う。</p> <p>イ プレゼンテーション能力・コミュニケーション力</p> <p>(2) 「わかる授業」「課題解決型の授業」の創造に取り組む。</p> <p>ウ 授業改善の取組み</p> <p>エ ICT機器の効果的な活用と校内ICTネットワーク構築</p>	<p>ア 学習に取り組みやすい環境を校内に構築すると共に、家庭内・学校外での学習時間を増加させ、学力向上につなげる。進路実現に向けてガイダンスを充実させる。</p> <p>イ 授業、ホームルーム、総合的な学習の時間等を活用してプレゼンテーションをする機会を多く設ける。グローバル人材の育成として英語力向上を図りコミュニケーション力向上に努める。</p> <p>ウ 授業力向上に向けての研修会を継続実施する。アクティブラーニングの実践に向けて、指導教諭を中心にし、課題解決型授業の実践と研修を実施する。</p> <p>エ 教科を限らず、ICT機器を利用する授業を充実させる。校内Eラーニング委員会を中心にオープンソースのMoodleを使った教育用ICTネットワークを校内に構築し、教育コンテンツを充実させる。</p>	<p>ア・普総選アンケートの選択科目と進路実現に関する肯定率(平成27年度67%)を69%にする。学力生活実態調査での家庭学習時間を今年度より15分以上伸ばす。(平成27年度3学年平日自宅内平均学習時間24分)</p> <p>イ・普総選アンケートのコミュニケーション力に関する肯定率(平成27年度72%)を75%にする。プレゼンテーションに関する肯定率(平成27年度56%)を60%にする。1・2年生に外部英語力評価試験を全員受験し、目標スコアを達成する。</p> <p>ウ・生徒の授業アンケートのわかりやすい授業の肯定率(平成27年度90%)を93%に。普通科普総選アンケートの自分で考える力の肯定率(平成27年度74%)を78%にする。</p> <p>エ・Moodleを使った電子媒体の課題の提出率を紙媒体のそれと比較する。</p> <p>オ・Moodleサーバにアップする教科を今年度最低3教科とし、活用する。</p>	<p>ア・普総選アンケートの選択科目と進路実現に関する肯定率は60%に下降(△)。</p> <p>・平日の家庭学習時間(学力生活実態調査)は23分。(△)</p> <p>イ・普総選アンケートのコミュニケーション力に関する肯定率は66%(△)。</p> <p>・プレゼンテーションに関する肯定率(平成27年度56%)は61.2%(○)</p> <p>・1・2年生が外部英語力評価試験を全員受験。2年生は前年度生に比較すると上位層に約40名欠けると判明。2年生単独で見ると、スコア520~609(上級レベル)の層で3名→8名、440~519(中級レベル)で18名→43名と伸びている。(○)ただし上位層の分布は前年度生より低い。</p> <p>ウ・生徒の授業アンケートのわかりやすい授業の肯定率(88%第1回、86%第2回アンケート結果(△))。</p> <p>・普通科普総選アンケートの自分で考える力の肯定率75%(△)。</p> <p>エ・Moodleを使った電子媒体の課題の提出率を紙媒体のそれと比較する。(△)</p> <p>オ・Moodleサーバにアップする教科を最低3教科の目標は達成できた。(○)</p>

## 府立豊島高等学校

<p>2 自らの将来を見据え、夢や希望を叶える進路を実現する。</p>	<p>(1) 進学実績の向上に向けての取り組み ア 難関私立8大学に毎年数十人が合格できるような取り組みを行う。 イ 進学意識の醸成</p> <p>(2) キャリアデザイン ウ 職業意識、進路意識の醸成 エ シラバスの改定</p>	<p>ア・勉強合宿を実施し、参加について保護者にも発信対象として早い時期から知らせる。 イ・全学年を対象とする大学見学ツアーを夏季に2回実施し、早い段階から大学への進学意識を醸成する。 ウ・キャリアデザイン(CD)の時間で、将来の自分を設計するキャリア教育の充実を図る。地域の人材や各界で活躍する人の講演を実施し、職業意識の醸成を図る。保護者にも情報提供を綿密に行う。 エ・普通科専門コース制への移行に伴い、ガイダンスブック(シラバス)の変更を行う。コース制導入に伴う新科目を反映させ、生徒のコースの選択を含む進路選択の教材とする。</p>	<p>ア・昨年度参加者60人を80人(施設の限界)に増やす。 ・難関8私大・中堅私大の延べ合格者数(平成27年度生200名)を30年度に230名にする。 イ・難関大学8校をはじめ、大学見学バスツアーを2回実施し、生徒の進学意識を高める。事後のアンケートで生徒の意識変化を「見える化」する。 ウ・学校教育自己診断でのHRや総合の時間での進路や適性についての肯定感を(平成27年度76%)を80%にする。 ・キャリアデザインプログラムの3年間の体系を完成する。 エ・専門コース制に対応するガイダンスブックを完成する。</p>	<p>ア・今年度参加者は65人(△)。 ・難関8私大・中堅私大の延べ合格者数(平成27年度生267名)を30年度に230名にする。 イ・大学見学バスツアーを2回実施、進学意識を高める「仕掛け」として活用。また事後アンケートで生徒の意識を初めて集約した。(○) ウ・学校教育自己診断でのHRや総合の時間での進路や適性についての肯定感74.8%(平成27年度76%) 3年生は80.4%と指導結果がでたが、1年生が67%と昨年同時期の77.1%を下げ、結果的に全体が下がった。(△)。 ・キャリアデザインプログラムの3年間の体系は完成した。(◎) エ・専門コース制に対応するガイダンスブックは完成。(◎)</p>
<p>3 自主・自律の精神を養い、社会そして世界に繋がる生徒の育成</p>	<p>(1) 生徒の規範意識を高め、通学マナーの向上とあいさつ運動の励行に向けての取り組み ア 遅刻指導の徹底 (2) 特別活動や生徒会活動を通じて生徒の帰属意識、愛校心を高める取り組み イ クラブ活動充実のための取り組み ウ 生徒会活動や学校行事活性化に向けての取り組み エ 国際交流を途絶えず継続して行く。海外の学校との連携を強化する。 オ 人権を尊重する取り組み</p>	<p>ア・遅刻の多い生徒については、期限を決めて回数をカウントし、早朝登校や個別指導を徹底して改善をはかる。 イ・新1年生を対象とするクラブオリエンテーションを継続実施し、全員に部活動の魅力を実感させ、入部率の向上をはかる。 ウ・豊中市、箕面市等地域社会と連携して地域行事や小中学生のイベントを始め様々な行事にクラブ生徒や生徒会を派遣し、豊島高校展など地域に貢献する豊島高校をアピールする。 ・生徒会が中心となった中学生向け学校見学会の参画や体育祭・学園祭の運営を通じて、学校への誇りと生徒の自主自律の精神を育てる。 エ・韓国慶南女子高校・Modbury High Schoolとの交流を継続し、国際感覚の醸成につとめる。 オ・生徒の個性を大切にし、お互いの多様性を尊重して、いじめのない学校をめざす。</p>	<p>ア・遅刻総数を(平成27年度2000回)を1800回にする。 イ・全学年の部活動加入率(平成27年度73%)を75%にする。 ・部活動の地域事業への参加回数(平成27年度は野球部のみで30回超)を30回以上維持する。 ウ・学校教育自己診断の学校行事における肯定率(平成27年度59%)を63%にする。 エ・韓国慶南女子高校とオーストラリア Modbury High Schoolでの海外短期語学研修の一層の定着を図る。 オ・安全で安心な学校づくりの生徒の申し出数を1件以内とする。</p>	<p>ア・遅刻総数は2月7日集計で2257回。目標の1800回を達成できず。(△) イ・全学年の部活動加入率は70%に下降(△)。 ・部活動の地域事業への参加回数は野球部、ダンス部、吹奏楽部を合わせて30回以上達成。(◎) ウ・学校教育自己診断の学校行事における肯定率は52.9%(平成27年度59%) 目標の63%に僅か足りず(△)。 エ・韓国慶南女子高校と交流維持。更に今年度より南山高校とも交流開始。(◎) オーストラリア Modbury High Schoolとの姉妹校締結完了(◎)。 オ・安全で安心な学校づくりの生徒の申し出数はゼロ(◎)。</p>
<p>4 学校全体の課題を共有し、解決に向けての組織づくり</p>	<p>ア 組織体制・連携 (1) 分掌間での連携・調整を強化。課題解決を図る (2) 課題解決のための役割を既存の経営会議、運営委員会が担当する。 イ 新しく始まるコース制への移行を成功させ、定着・発展させる取り組みを行う。</p>	<p>ア・長年懸案になっている「期末後講習」の実施母体を既存の分掌(進路・教務)が担当し、生徒・教員の満足度の高い講習をめざす。 ・コース制への移行に伴い、これまでの組織では対応できない課題が生じる。これらを昨年発足した「コース制を考える会」及び経営会議において検討し、「前さばき」を行い、既存の組織に落とし込んでいく。 イ・各コースの魅力となる取り組みを検討し、導入する。各専門コースで、長期休業中に実施可能な(校内ではできないような)活動を取り入れ、コースの特徴づくりをする。</p>	<p>ア・内容は進路部、時間割作成を教務部が担当する形に変更する。講習実施後は対生徒・教員アンケートを実施し、PDCAを回していく。 イ・大阪成蹊大学との高大連携を利用した取り組みを少なくとも1つは取り入れる。(大阪成蹊大学と本校は高大連携の締結をしている)</p>	<p>ア・期末後講習の内容は進路部、時間割作成を教務部が担当する形に変更した。講習実施後は対生徒・教員アンケートを実施し、職員会議で報告済(◎)。 イ・大阪成蹊大学との高大連携を利用した講座に参加(◎)。</p>